

備前市事務事業評価表

(平成17年度事業)

事務事業名	環境衛生事業（備前）		コード	01-02-02-02	担当課	環境課 衛生係
事業実施期間	昭和46年度～		担当者	馬場敬士		
総合計画 事業（政策）体系	大項目	安全で快適に暮らせるまちづくり				
	中項目	自然と共生するまちづくり				
	小項目	環境美化				
	施策	環境美化活動の推進				

事業について	
目的	市民のボランティア活動の協力を得て、快適な生活環境の保持と環境美化の促進を図り、もって清潔で美しいまちづくりに資する。
対象 (誰のために)	清潔で快適な暮らしを求める市民
内容	家庭ごみの排出指導、ごみステーションの清掃、防疫（消毒）、地区清掃、不法投棄監視、犬猫等の死体収容、放置自動車処理

事業の結果			
実施項目	17年度 回数など (単位)	回数など (単位)	回数など (単位)
環境衛生指導員数	200 人		
粒材配布数	2,500 袋		
防疫機械貸出延台数	156 台		

事業費 (単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	5,478	国県補助金等		直接事業費		国県補助金等		直接事業費		国県補助金等	
	人件費	4,790	受益者負担		人件費		受益者負担		人件費		受益者負担	
	合計	10,268	市債	10,268	合計	0	一般財源等	0	合計	0	一般財源等	0

必要人員	0.55	人		人
結果指標①	結果指標名	環境衛生指導委員数		
	結果指標量	200		
	単位	人		
	対前年比	—	0.00%	
	事業費	2,815,000	円	
	単位当たりコスト①	14,075	円	
結果指標②	結果指標名	防疫機械貸出延台数		
	結果指標量	156		
	単位	台		
	対前年比	—	0.00%	
	事業費	849,100	円	
	単位当たりコスト②	5,443	円	

事業の成果			
成果指標名	防疫機械貸出延台数	式又は説明	防疫機械貸出延台数
成果指標量	17年度 156		
対前年比	—	0.00%	
到達目標値	200	到達目標年度	平成27年度

事務事業の評価		課題認識
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 関係法令等で目的が定められており妥当である 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている 事業開始当初の目的から変化しつつある 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である [関係法令等：備前市環境衛生指導委員規則]
	対象の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 受益者の拡大を検討する余地がある 受益者の縮小を検討する余地がある 現在の対象者は妥当である
	市民ニーズの妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 市民、団体などから要望・要請のある事業である 市民に概ね好評な事業である 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である
効率性の評価	市の関与の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 国・県又は関係法令で定められている事業である 民間に類似サービスがある 本市が関与すべき事業である 事業を取り止めた場合の影響は大である
	コストの効率化	<ul style="list-style-type: none"> 単位当たりコストは増加傾向にある コスト削減の努力をしている できる限り民間活力を利用している 受益者負担額は適正である
	手段の最適化	<ul style="list-style-type: none"> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている 他に有効な代替手段が見当たらない 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている
有効性の評価	職場の効率化	<ul style="list-style-type: none"> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている 事業に関するOJT（職場研修）は行われている 事業の進行管理を定期的に行っている 事業実施について職員の意見・要望が反映されやすい
	目的達成度	<ul style="list-style-type: none"> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである 成果指標は前年度より向上している
	成果向上の可能性	<ul style="list-style-type: none"> 成果は向上しており今後も向上する見込みである 今後、成果指標は向上する余地がある
市民参画度	<ul style="list-style-type: none"> 事業について積極的に情報提供している 事業実施等で積極的に市民意見を反映している 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている 	環境衛生思想の普及について、環境衛生指導委員会において検討を行い、検討された方針に基づいて、市民のボランティア活動の協力を得て、ごみの排出指導、ごみステーションの清掃、防疫（消毒）、地区清掃、不法投棄の監視等を行っている。 環境衛生指導委員会、市民のボランティア活動の協力を得て、事業を行っているために市が直営で業務を行っている部分は少ない。 ごみの排出指導、ごみステーションの清掃、防疫（消毒）、地区清掃、不法投棄の監視等については、清潔で快適な暮らしを維持するためには必要な事業である。

総合評価	
コメント	環境衛生に関する事業については、環境衛生指導委員会、市民のボランティア活動の協力なしには事業は進められない。環境衛生思想の普及方法等について環境衛生指導委員会で再度検討を行いながら、事業を進める必要がある。
評価区分	<A~E> B

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) 現状のまま継続する 見直しのうえで継続する 事業の縮小を検討する 休止・廃止を検討する 完了・統合 		
翌年度 結果指標量①	14,100	結果指標量②	165
目標値 成果指標量	165		

改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
妥当性			
効率性	防疫機械の受付、貸出について	H18~	貸出場所をクリーンセンターに移すことにより土・日曜日の対応が可能となる。
有効性			

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。